

基調講演

文化複合施設の変遷と潮流

～文化的commonsとしての未来～

令和8年

5

27

水

| 会場 敦賀市役所 2階 講堂

(15:00～)

開催趣旨

文化施設（博物館・美術館・図書館・公民館など）は、世代の移り変わりとともに求められる役割が変化・進化してきた。その領域は拡張し、従来の役割に加えて社会やまちにひらかれた『地域の関係づくりの拠点（＝commons：共有地）』としての役割も求められつつある。

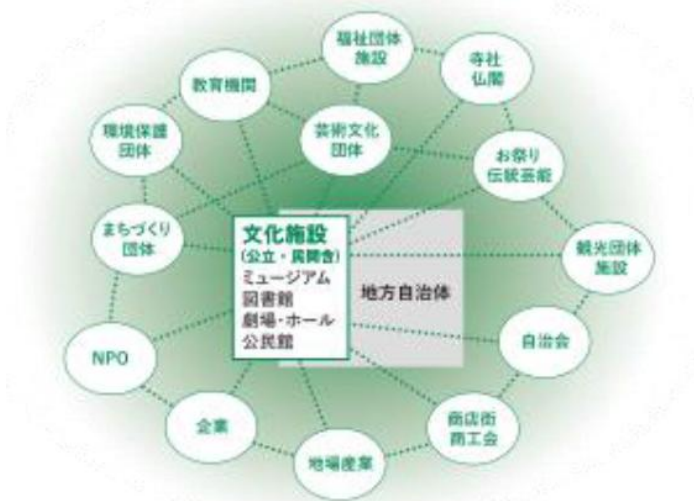
近年、全国的に人口減少を迎える局面において、文化施設のあり方は成熟期というフェーズを迎えながらも、複合的に多様化し、『**文化的commons**※』（＝地域の共同体の誰もが自由に参加できる入会地のような文化的営みの総体）を形成する役割を担いつつあり、今後の社会においてより一層重要な核となることが期待されている。

この度、敦賀市として歴史と文化の中心地である氣比神宮の周辺エリアにおいて、複合施設（＝文教施設）を考える重要な機会にあわせ、幅広く深い視点を持って議論するきっかけとして、今回の基調講演を開催し、文化複合施設（文化的commons）の役割や未来を語っていただく。

※文化的commons

地域の共同体の誰もが自由に参加できる入会地のような文化的営みの総体

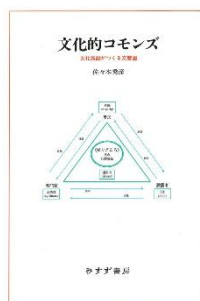
英語のcommon（common）という言葉には「共通の、公の、公共の」といった形容詞としての意味があり、複数形のcommons（commons）は「共有地、公共緑地（広場・公園）」といった意味の名詞でもある。日本では地域の共同体が共有する山林や原野を「入会地」と呼び、これが英語のcommonsに相当する。



ささき ひでひこ
佐々木 秀彦 氏

プロフィール

1968年生まれ。東京外国語大学卒業、東京学芸大学大学院修士課程修了。江戸東京博物館、江戸東京たてもの園、東京都美術館の学芸員、アーツカウンシル東京企画部企画課長を経て江戸東京博物館参事。専門は文化施設論、文化資源論。国や自治体の文化施策、文化施設にソーシャル・キュレーションの視点で関わる。著書に『コミュニティ・ミュージアムへ』（岩波書店）、『文化的commons』（みすず書房）*全日本博物館学会賞受賞。



問い合わせ先

〒914-8501 敦賀市中央町2丁目1番1号
敦賀市まちづくり観光部まちづくり推進課
0770-22-8137